

## 平成17年度美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985年から募集と研修を開始し、86年4月の開館と同時に350人の体制でその活動を始動させた。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。

今年度は、グループ活動のみへのボランティア登録の道を開くなど、グループ活動の拡充を目指し、もってボランティア活動全体の活性化を図った。

### ■活動人数の推移

昭和61年度	350名
昭和62年度	307名
昭和63年度	260名
平成元年度	317名（新規参加者90名）
平成2年度	263名
平成3年度	240名
平成4年度	223名
平成5年度	347名（新規参加者140名）
平成6年度	331名
平成7年度	299名
平成8年度	282名
平成9年度	273名
平成10年度	354名（新規参加者94名）
平成11年度	316名
平成12年度	297名
平成13年度	265名
平成14年度	331名（10月より新規参加者95名）
平成15年度	328名
平成16年度	303名
平成17年度	285名

### ■活動内容と役割

#### 【日常活動班】

火曜1週班から日曜4週班まで、全体を24班に分け、月1回を基本活動日としている。

内容は、来館者と直接接する「来館者対応」と、縁の下の力持ちとして来館者からは見えないところで美術館の業務を様々な面から助ける「内部の活動」の2種がある。

#### 来館者対応：

- (1) インフォメーションカウンターでの案内
- (2) 図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- (3) 来館者アンケート調査
- (4) 障害のある方への補助

- (5) 団体観覧者に対する資料配布 など

#### 内部の活動：

- (1) 他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- (2) 新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- (3) 各種講座や研修の受講及び自己研修
- (4) 館外での当館開催展や諸活動の広報
- (5) その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

この他に、収蔵品展や企画展の鑑賞研修も大切な活動である。収蔵品展はいつでも鑑賞することができ、美術館の所蔵作品について造詣を深めることに各人が努めている。企画展についても積極的に鑑賞研修を進めるため、各企画展1回の鑑賞を認めている。各展開幕時には「ボランティア内覧会」を実施し、担当学芸員による解説と内覧が行われており、いち早く展覧会の内容把握に努め、その魅力を広く館外へ広める対外的な活動に役立っている。

また、ボランティア相互の連絡調整につとめる「班長会」を年間2回実施し、よりよい美術館ボランティアのあり方とボランティア組織の自主運営について討議した。

【グループ活動】今年度から、ボランティア各自の興味・関心に応じたグループ活動を拡充し、グループ活動のみのボランティア登録も可とした。

- (1) アートセンター
  - Aグループ 閲覧室改善と運営
  - Bグループ 新聞資料・はがき整理
- (2) ギャラリートーク
 

収蔵品展および企画展の作品解説
- (3) 草薙ツアー
 

草薙ツアーの計画・実施および彫刻プロムナード茶の世話、お茶会の企画・実施
- (4) 講演会運営
 

講演会事業の広報、運営補助、企画への参画
- (5) 広報支援
 

美術館の広報活動支援
- (6) 実技室
 

実技室における各種イベントの運営補助
- (7) タッチ・ツアー・ガイド
 

タッチツアープログラムの案内係
- (8) パソコン隊
 

パソコン入力による美術館のデータ整備支援
- (9) ボランティア運営

ボランティア組織の運営、ボランティア総会の企画・運営

(10) 旅行研修

自主的な研修旅行の企画、実施

■年間活動記録

- 4月 1日 285名で活動開始
- 4月19日 「美術の20世紀」展 内覧会
- 6月 9日 「物語のある絵画」展 内覧会
- 7月25日 「アルタイの至宝展」 内覧会
- 9月29日 「田能村竹田の世界」展 内覧会
- 10月 2日 第1回日常活動班長会
- 10月26日、11月 3日 研修旅行  
聖徳記念絵画館（明治神宮外苑）  
三井記念美術館  
計144名参加、随行：堀切正人、森充代
- 11月11日 「誘惑の光景」展 内覧会
- 11月26日 第2回日常活動班長会
- 11月28日 グループ代表者会
- 1月～2月 日常活動班再編成
- 3月12日 総会
  - ・平成17年度の活動報告と平成18年度の活動について
  - ・美術館からの連絡事項
  - ・各グループから活動報告
  - ・班別ミーティング

■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成17年度当初、登録人数は156名。

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

広報サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度広報サポーターには「活動アンケート」を義務付けている。

なお、平成17年度末をもって「広報サポーター」に区切りをつけ、平成18年度から新たなサポーターへ移行させることとした。

1) 「広報サポーター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
- ・広報サポーター証の発行を受ける

2) 「広報サポーター」の義務

- ・展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
- ・効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
- ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する